

## 公募助成「腎不全病態研究助成」研究サマリー

研 究 名	透析患者の生命予後および血管病変形成に Calprotectin が果たす意義の検討
所 属 機 関	熊本大学大学院 生命科学研究部 腎臓内科学講座
氏 名	栗原 孝成
<p>【目的】炎症メディエーターMyeloid-related protein 8(MRP8)は MRP14 と heterodimer を形成、血中に安定して存在し、TLR4 シグナルを増強して病態悪化に寄与することが知られている。今回、血液透析(HD)患者における血清 MRP8/14(sMRP8/14)の意義を検討した。</p> <p>&lt;BR&gt;【方法】県内 5 施設の維持 HD 患者 403 名を対象に sMRP8/14 を ELISA で測定。観察開始時の sMRP8/14 と各臨床パラメータ、死亡含めたイベントとの関連を横断的および前向きコホート研究(2012 年から 6 年間)で検討した。</p> <p>【結果】平均年齢 65 歳、中央値透析期間 5.7 年、中央値 sMRP8/14 濃度 6090ng/ml(正常値 500-3500ng/ml)であった。sMRP8/14 は白血球数(<math>r=0.54, p&lt;0.0001</math>)、hsCRP(<math>r=0.34, p&lt;0.0001</math>)と正相関を示した。既知の危険因子で補正した多変量 Cox 比例ハザードモデルでは sMRP8/14 高値は総死亡の独立した予測因子であった(HR 1.83, 95%CI 1.02-3.11)。Kaplan-Meier 分析では sMRP8/14 低値では P 低値が、一方で sMRP8/14 高値では P 高値が生命予後不良であった。この結果は、同じ炎症指標である hsCRP 高値が低 P と相乗的に生命予後不良を示すのと対照的であった。</p> <p>【結語】HD 患者でも sMRP8/14 は炎症と相関していた。また sMRP8/14 高値は生命予後不良に繋がる可能性があり、特に高 P と組み合わせることで従来の炎症指標とは異なる意義を有することが示唆された。</p> <p>上記内容に関して、論文発表を行った。</p>	